

2003年6月期 第3四半期決算説明会

2003年5月14日

株式会社インターネット総合研究所
代表取締役 藤原 洋

(注) 当資料は、当社の2003年度6月期第3四半期決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2003年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目次

- (1) 2003年6月期第3四半期決算実績
- (2) 決算ハイライト

〔1〕 2003年6月期第3四半期決算実績

1. 2003年6月期第3四半期決算サマリー



(単位:百万円)	2002・6月期 第3四半期	2002・6月期 通期	2003・6月期 第1四半期	2003.6月期 第2四半期	2003・6月期 第3四半期	2003・6月期 9ヶ月累計	2003・6月期 見通し
売上高	2,264	7,711	2,117	2,719	3,529	8,365	11,000
うちIPネットワーク事業	854	2,363	629	849	1,885	3,363	-
うちIPプラットフォーム事業	1,401	5,311	1,485	1,866	1,641	4,992	-
うちその他事業	7	36	2	3	3	8	
売上総利益	437	1,338	302	433	494	1,230	-
販管費	807	2,762	463	498	489	1,451	-
うち連結調整勘定償却	158	475	3	3	1	7	
営業利益	370	1,424	161	64	4	221	294
(持分法による投資損失)	651	2,810	165	193	161	520	
経常利益	1,024	4,328	333	299	186	820	1,063
当期純利益	1,316	4,783	324	337	228	890	1,160

売上高: 35.2億円(累計売上高: 83.6億円)

エンタープライズ向けビジネスの立ち上がりとともに、機器販売等の新たな収益源が拡大
累計の売上高で、当初の通期見込みを達成

営業利益: 4百万円(累計営業損失: 2.2億円)

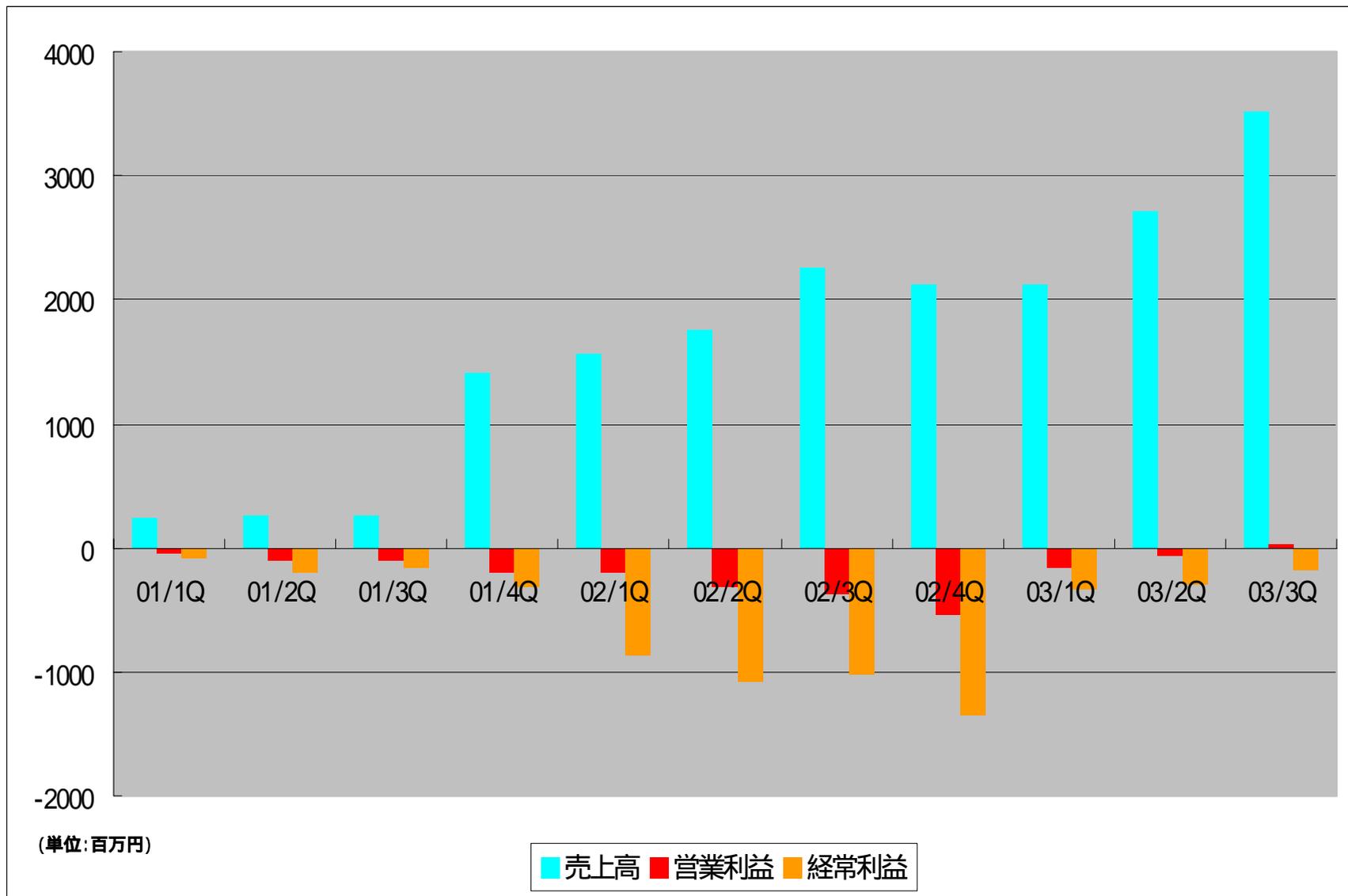
株式公開以来の連結ベース(四半期)での営業黒字を達成

エンタープライズ向けビジネスの拡大のため積極的に人的投資を行い、営業を中心として強化を行う

経常損失: 1.8億円/当期純損失2.2億円(累計経常損失8.2億円/累計当期純損失8.9億円)

主にブロードバンド・エクスチェンジ(BBX)の持分法損失の影響により経常損失および、当期純損失が
拡大

2. 連結売上高、営業利益、経常利益の四半期推移



3. 2003年6月期第3四半期: 財政の状況



(単位: 百万円)	2002・6月期 第1四半期	2002・6月期 第2四半期	2002・6月期 第3四半期	2002・6月期 決算期	2003・6月期 第1四半期	2003・6月期 第2四半期	2003・6月期 第3四半期	前年同期比
流動資産	6,713	7,229	7,088	4,987	4,814	4,880	5,243	-26.0%
うち 現金及び預金	4,062	3,676	4,117	1,447	2,014	1,614	1,330	-67.7%
うち 受取手形・売掛金	1,615	1,776	2,101	1,645	1,737	2,098	2,865	36.4%
固定資産	6,735	5,890	6,266	5,109	4,924	4,691	4,577	-27.0%
うち 有形固定資産	182	249	2,205	2,124	2,111	2,103	2,109	-4.4%
うち 無形固定資産	319	168	59	37	34	32	54	-8.5%
うち 投資その他資産	6,233	5,472	4,001	2,948	2,779	2,556	2,413	-39.7%
資産合計	13,449	13,120	13,355	10,097	9,740	9,571	9,820	-26.5%
流動負債	1,906	2,324	3,040	2,715	2,606	2,942	3,503	15.2%
うち 支払手形及び買掛金	1,148	1,342	1,708	1,526	1,610	1,881	2,396	40.3%
うち 短期借入金	474	541	545	406	450	400	400	-26.6%
その他	235	411	729	153	483	461	648	-11.1%
固定負債	77	232	1,145	961	961	814	740	-35.4%
うち 退職給付引当金	70	71	73	79	82	86	88	20.5%
うち 長期未払金	-	-	1,021	880	877	727	650	-36.3%
負債合計	1,983	2,558	4,185	3,677	3,567	3,756	4,243	1.4%
少数株主持分	1,758	1,691	1,896	416	483	466	447	-76.4%
資本金	2,050	2,081	2,083	2,188	2,191	2,202	2,202	5.7%
資本合計	9,707	8,870	7,274	6,003	5,687	5,350	5,129	-29.5%
負債・少数株主持分および資本合計	13,449	13,120	13,355	10,097	9,740	9,572	9,820	-26.5%

流動資産の減少および現金預金の減少:

- ・損失計上に伴う現預金の減少
- ・BBXが前期第3四半期では連結子会社であったが連結範囲の変更による減少

固定資産の減少:

- ・投資有価証券(株式)売却による減少
- ・持分法適用による、関連会社への投資額の減少

長期未払金の減少:

- ・ブロードバンドタワーの設備未払金の弁済による減少

短期借入金の減少:

- ・タウ技研の銀行借入の返済による減少

少数株主持分の減少:

- ・タウ技研を100%子会社化したことによる減少
- ・BBXが前期第3四半期では連結子会社であったが連結範囲の変更による減少

〔2〕 決算ハイライト

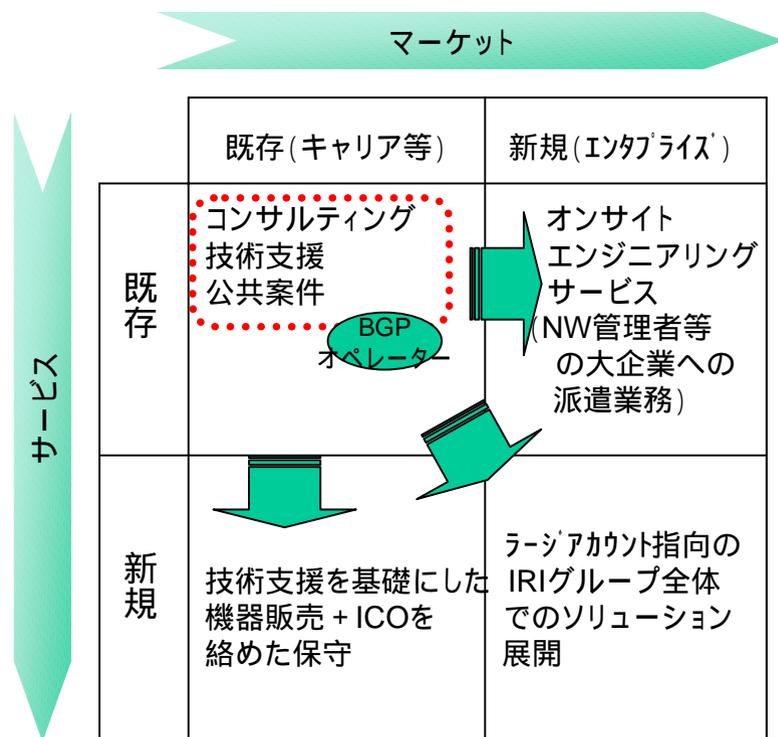
4. IRI (単体)の収益拡大

エンタープライズ・ビジネスの拡大(ソリューションサービス)

昨年9月の新体制発足以来強化してきた、エンタープライズ向けソリューションビジネスにおいて機器販売、コストリダクションを実現するNI(ネットワークインテグレーション)等、ビジネスモデルを多様化して収益機会を創出

キャリア支援型ビジネスモデル(コンサルティング、業務支援)

従来のキャリアに加え、新興ブロードバンドキャリアからネットワーク構築におけるコンサルや、増大するトラフィックの運用業務支援を展開



松下電工と次世代ネットワークプロトコル(IPv6)対応の HX (Home eXchange) の共同開発



家庭内でユビキタス環境を実現するネットワーク・ゲートウェイである、Home eXchange (ホームエクスチェンジ、以下HX)を共同研究の上、試作機を完成させ、両社共同での特許出願。2003年度、製品化を目指した開発を実施し、2004年度には両社で開発した製品を出荷できる見込。

HXは次世代ネットワークプロトコルであるIPv6対応の初めての本格的コンシューマ向け製品となり、松下電工の提唱するEMIT (エミット、Embedded Micro Internetworking Technology) に準拠した製品。

EMITは、設備機器をインターネットに接続できる技術のことで、異なる通信方式、異なるネットワークの機器と機器をつなげることを可能にします。この技術を活用することにより、例えば携帯電話から宅内機器の遠隔操作やパソコンで機器の状況を確認できます。

IRIが経営のイニシアティブをとることにより、ビジネス・ドメインをフォーカスし、事業の早期立ち上げを図る



2003年度方針

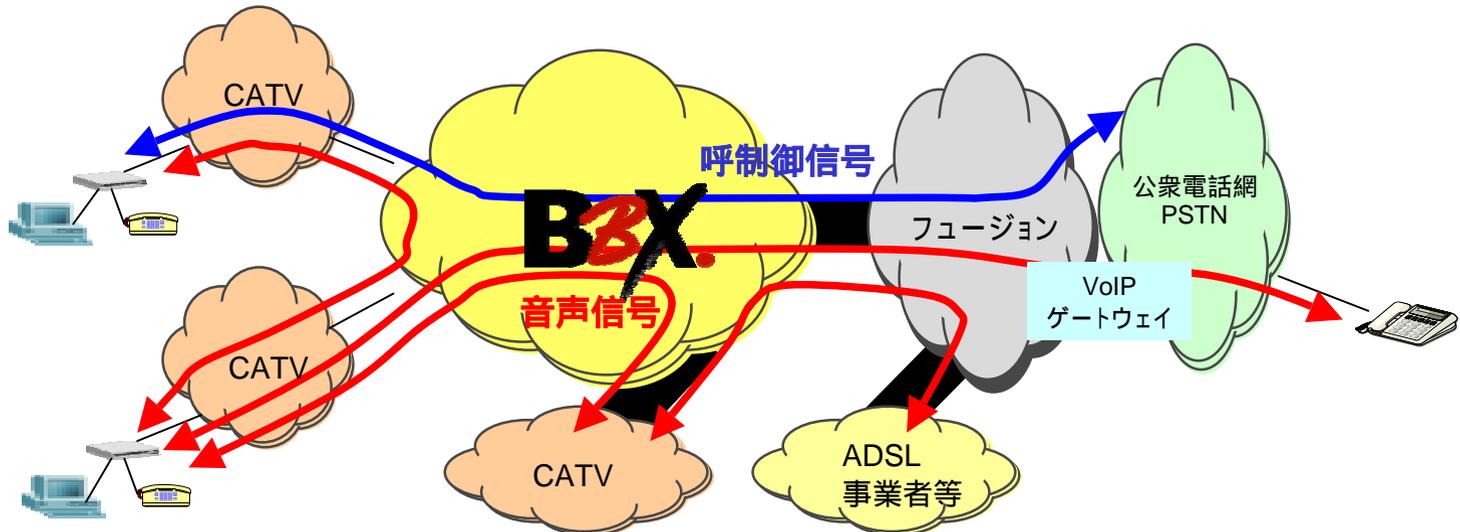
『単月度黒字の達成』

『サービスオリティが担保された良質のネットワークの構築』

『既存インフラを利用した新サービスの開発』

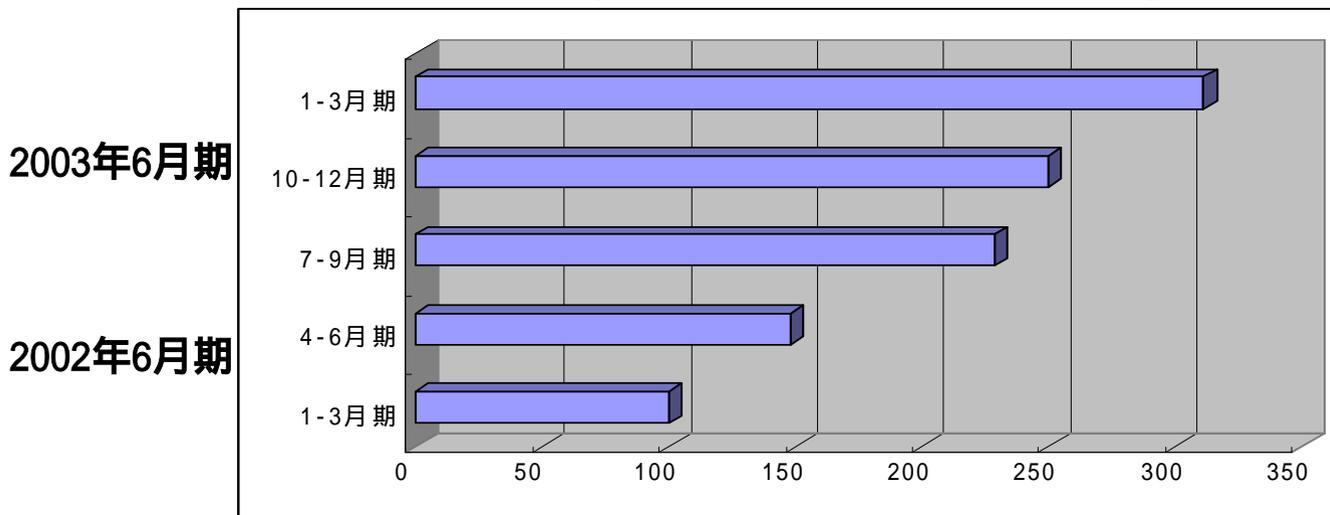
新サービスの開発

・CATV事業者向けIP電話ASPサービスBEX Phone (イメージ図)



ブロードバンドタワー ラックの稼働状況が順調に推移

稼働推移状況(2002年1-3月期を100とした推移)



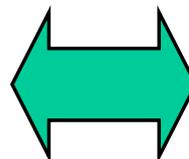
タウ技研 「製智産業」のビジネスモデルを構築

ユビキタス環境の進展にむけたシナジーの最大限の発揮をめざす



端末技術

- ・ユビキタス端末の開発
- ・映像信号制御回路/
ファームウェア
- ・無線制御系ファームウェア



企業顧客

8. 連結業績推移

